地域包括ケアの地区展開　令和８年度　松沢　地区アセスメント

人口

面積（ｋ㎡）	人口（人）	人口密度（人/ｋ㎡）	高齢者人口（人）	高齢化率(%)	年少人口（人）	年少人口率(%)	世帯数(世帯)	平均世帯人数（人）	高齢者がいる世帯数				高齢者がいる		介護保険		障害者手帳保持者		障害サービス受給者	
										高齢単身者世帯数	高齢者のみ世帯数	その他高齢者がいる世帯	世帯率(%)	内高齢単身・高のみ世帯率	認定者数(人)	認定率(%)	身体障害者手帳	愛の手帳	自立支援給付	障害児通所給付
2.123	34,649	16,321	7,538	21.76%	3,702	10.68%	18,989	1.82	5,532	2,524	1,430	1,578	29.13%	20.82%	1,683	22.33%	737	207	268	134

傾向

【人口構成】
人口は北沢地域６地区の中で最多である。６５歳以上の高齢者の割合はもともと区全体や地域より高かったが今年さらに上昇。
一世帯あたりの家族数は区の平均値ながら徐々に減少している。

地域活動

町会・自治会数	会員世帯数	サロン等登録団体数					社協・新たな居場所登録団体数	社協・民間施設の活動場所発掘件数	社協・地区サポーター登録数	生活支援体制整備事業　協議体開催回数	資源開発・生活支援サービス件数		主な活動団体とその取組内容
			サロン	子育てサロン	ミニデイ								
13	9,952	30	28	2	0		5	17	70	14	7		○１３の町会・自治会等がより住み良い地域づくりを目指し、活発なコミュニティ活動を多方面で行っている。 ○各活動団体がサロンや地域カフェなど、高齢者等の居場所を提供している。

生活支援

地域密着型サービス							ショートステイ	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	都市型軽費老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム		障害者・児　通所系・共同生活援助等
定期巡回･随時対応型訪問介護看護	夜間対応型訪問介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護	認知症高齢者グループホーム	地域密着型特別養護老人ホーム						うち、特定施設入居者生活介護	
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	○「桜上水福祉園」（生活介護） ○「ＡＢＡスクール ペッピーパッチ」「あじさい」「デイサービスにじのこ赤堤」（障害のあるお子さんの通所施設） ○「めぐ」「グループホームえにし」「グループホーム赤堤」「ユニットメゾンＹＯＵ」「ユニットベルハイム」（共同生活援助） ○他に、移動支援などのサービス提供事業者も複数ある。

障害相談支援機関・相談支援事業所

地区内に「東京総合福祉」、隣接地区に地域障害者相談支援センター「ぽーと きたざわ」などの相談機関もある。

医療

医療機関、訪問看護等

診療所・薬局は多くあり、隣接地区には「児玉経堂病院」「都立松沢病院」「有隣病院」などの総合病院が複数ある。
介護施設は老人ホーム（軽費・有料）、サービス付高齢者住宅のほか、多くの通所施設がある。

子ども・教育	児童館	松沢児童館
	その他、児童施設	
	おでかけひろば	なし
	保育施設	【区立保育園】赤堤保育園　【私立保育園】赤堤ゆりの木保育園、おおわだ保育園世田谷豪徳寺、河田保育園、京王キッズプラッツ桜上水、早苗保育園、早苗保育園分園ほなみ、にじのおうち保育園、マリア保育園、みんなのおうち保育園、わらべうた経堂保育園　【認証保育所】ポピンズナーサリースクール経堂
	幼稚園	【私立幼稚園】あかつつみ幼稚園、マダレナ・カノッサ幼稚園
	新ＢＯＰ	赤堤小新ＢＯＰ、経堂小新ＢＯＰ、松沢小新ＢＯＰ
	地区内に所在する小学校または関係のある小学校	区立赤堤小学校、区立経堂小学校、区立松沢小学校、 （地区の子が通う地区外の指定校：区立上北沢小学校、区立八幡山小学校）
	地区内に所在する中学校または関係のある中学校	区立松沢中学校、区立緑丘中学校
	地区内に所在する高校・大学等または関係のある高校・大学等	都立松原高等学校、日本大学櫻丘高等学校、日本大学文理学部
	子どもに関するその他の事項	
	○「せたがやこども食堂みっと」（子ども食堂） ○「ブルガ」（子ども、地域の方への食支援） ○日大桜んぼ塾（高校生以下の児童生徒への学習支援）	
その他支援	その他の支援機関など（例：就労支援など）	
	○「のぞみ園」（就労継続支援Ｂ型） ○喫茶ＹＯＵ・遊（障害のある方が働く店舗）	
公共施設	図書舘	松沢図書室
	地区会館、区民集会所など	桜上水南地区会館、六所橋区民集会所、松沢区民集会所、土と農の交流園

住まい・環境・防災

主な公園・緑道・広場	赤松公園、赤堤けやき公園、桜上水公園、桜上水のびのび公園、上北沢八幡公園、赤松ぼっくり庭園緑地など １０の公園、１つの緑地、３つの広場がある。

土地利用、地理的特徴（住宅の特徴を含む）

区の北側中央部に位置し、北側は杉並区に接している。
閑静な住宅地が大半を占め、桜上水では所々に残る畑の宅地化が進んでいる。

交通の便に関する事項（鉄道・道路）

○鉄道は、北側に京王線、東側に東急世田谷線、南側に小田急線が走っており、下高井戸駅や桜上水駅、豪徳寺駅・経堂駅などから新宿・渋谷などの商業地域や都心オフィス街へのアクセスは良好である。
○下高井戸駅、桜上水駅では、開かずの踏切の解消や安全性の向上を目指し、京王線連続立体交差事業（高架式）が進められている。
　道路は、赤堤通り、赤松通り、西福寺通り、荒玉水道道路があり、区外北側には国道20号線（甲州街道）と首都高速4号新宿線（中央高速道路）が　東西に延び、自動車での移動も便利である一方、地区内には細街路が多い。
○バス路線や鉄道駅が近くにない高齢者等が駅などにアクセスするための交通手段確保に向け検討を進めている。

産業に関する事項（買物・商店街などを含む）

○下高井戸、桜上水、松原、山下（豪徳寺）、経堂などの駅周辺には商店街があり、主催イベントやお祭りの際はいっそうの賑わいが見られる。
○スーパーマーケットも近接地区を含め大小数店舗ある。
○一部、近くに商店などが少ないエリアもある。特に高齢者等買物弱者が多く存在する地区からは移動販売を望む声が出されている。

防災　→　各地区の地区防災計画を参照

地区課題解決の取組み

地区ビジョン
『見守る・備える・つなげる、輝くまちへ！』

課題、取組みの方向性
1.【課題】 地域活動団体の担い手の高齢化・後継者不足が深刻化している一方、防災や各種困りごとなどに対する町会への期待は高まっている。 【取組みの方向性】 四者連携による福祉の相談体制の強化、まちづくりセンターを中心として まちづくり・防災活動の支援を行い、町会活動を下支えする。
2.【課題】 ・「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」が浸透しておらず、認知症に対する正しい理解が進んでいない。 ・高齢者に限らず高齢者がいる世帯の孤立によって支援が困難になっている。 【取組みの方向性】 ・あんしんすこやかセンターを中心に勉強会などを開催し、認知症に対する知識や事例研究の蓄積を行い、適切な対応ができることを目指す。 ・四者が地元の医療機関や学校や商店街の店舗と協働で、フレイル予防、認知症予防講座を実施し、地域に認知症に対する正しい理解を促進する。
3.【課題】 京王線連続立体交差事業関連の工事に伴う周辺環境への影響や街並みの変化等に対する周辺住民の不安がある。 【取組みの方向性】 杉並区とも連携しながら、京王線連立事業への街づくり提案や意見交換等を引き続き行っていく。

参加と協働の地域づくりの取組み内容（参加と協働を基盤とした地区課題への取組み）	
①	【町会活動の下支え】福祉に係る相談は、定期的に四者で相談案件の情報共有を図ると共に、連携して対応に当たっている。必要に応じ、関係機関への働きかけを行い、適切な相談先に繋げる等で解決の方向性を見出している。町会からの相談や町会との打ち合わせ等の機会を通し、まちづくりセンターと町会とで各町会等が抱える課題を共有し、まちづくりや防災活動での必要な支援を行い、町会活動の活性化を促している。
②	【認知症への理解促進】・あんしんすこやかセンターを中心に定期的に勉強会や報告、事例研究を行っている。 ・認知症になっても安心して暮らし続けることができる地域づくり活動の一つとして、「若年性 認知症の会」を他地区と合同で立ち上げた。 ・運動・栄養・社会参加が大切との専門家の見解を受け、地域へ認知症に対する理解を浸透させていくため、商店街等の協力を得つつ取組みを進める。
③	【京王線立体化に伴う新たな街づくりへの参画】定期的に、京王線連立事業に係る街づくり会議を開催し、地元の区民からの街づくり提案や意見を伺う機会を設けている。杉並区に含まれる箇所もあることから、杉並区とも情報共有、連携をしながら街づくりを進めている。
④	【高齢者、高齢者世帯の孤立対策】・多世代が集まる町会・自治会による避難所訓練等や児童館まつり等に参加し、広告入りトイレットペーパー、ウエットティッシュの配布等を通じて四者による福祉の相談窓口の周知・啓発を行っている。 ・高齢になっても孤立しないよう、日大文理学部の授業の一つであるコミュニティワーク推進研究では、地域の課題や具体的な解決策を日大生と一緒に考える機会となっており、多世代交流の場と機会提供の仕掛けづくりを企画している。
⑤	【地域の居場所・交流の場づくり・地域の見守り】サロンや地域カフェ、イベントの企画など、つどう場を各活動団体等が提供している。 ・誰でも気軽に参加できる『おしゃべり★カフェ』を定期的に「喫茶ＹＯＵ・遊」や「カフェ アンキミカ」で開催している。その場に四者の職員が参加し地域の方々と顔なじみになり、気軽に身近な困りごと等の相談をしてもらうことで、ゆるやかな見守り機能の役割も果たしている ・食の面から地域の人々を迎え、孤立しないよう支えるという観点から、地域の人々の運営による「まほろば」や「ブルガ」の食堂の活動を支援する。 ・若年性認知症や障害のある方等の居場所づくりとして、日大生、商店街と連携して交流の機会を設定し、イベント等を通じて人々の交流を促進する ・児童館の低学年キャンプ、児童館まつり、中高生お泊り会等に、日大生等が運営側として参加、子どもの見守りと世代間を超えた交流を図っている。 ・古着古布回収の際、社協有志ボランティアが個別訪問・回収を行うことで、ゆるやかな見守りに加え、困りごと等の相談機能も持っている。 ・商店街のイベント等で休憩所や熱中症お休み処を設置し、イベントに来られた方の交流の場も兼ねた居場所となっている ・地域の子育て力向上を目的として、地域の子育て関係団体間での情報交換や連携強化、親子で楽しめるイベント等での相談、情報提供等を行っている。